

立正大学文学部文学科英語英米文学専攻コース NEWSLETTER VOL. 08

Faculty of Letters | Risho English | April 30, 2026

立正英文コースで
心理言語学を学ぼう

「言い間違い」から言葉の不思議を探る

ある英語の母語話者は、有名なアニメを紹介しようとして“Jom and Terry…”、またある言語学者は「外来語というカタコトの言葉」と言ってしまいました。前者はもちろん *Tom and Jerry*、後者は「カタカナ」と言おうとしたものです。日常会話ではこのようなAと言おうとしたのにうっかりBと言ってしまったという言い間違いに遭遇します。

突発的な言語現象ですが、単なる笑いのネタと侮ってはいけません。「うっかり」の部分がとても重要で、意識できない私たちの心や言葉の仕組みや働きを教えてくれる貴重なデータとみなされています。

夢分析で有名なフロイトは言い間違いは言うてはいけないことを意識下に隠そうとする際の誤作動だとみなし、心理言語学と呼ばれる言語学と心理学の境界領域では言い間違いにみられる規則性は発話（意図から音声へ変換）に使われる言語部品やその組み立て方法を反映していると注目されています。たとえば先ほどの最初の例では語句の対応する位置にある音節内の子音が交換されること、2番目の例では文を作る時に「心の辞書」から語彙を引き出す際には意味的な類似性はもちろんのこと、音韻的（語頭の音やアクセント、語の長さ）な類似性もヒントとして働いていることを教えてくれます。

意識できないために当たり前だと思って見過ごしている事象を「裏窓」から観ると思わぬ発見がある…言語研究、文学研究にとって示唆するところが大きいアプローチかもしれません。
寺尾 康（心理言語学・音韻論・第二言語習得）

6月14日(日)オープンキャンパス模擬授業「高校では教えない方向からおなじみの構文をみる」

次の二つの構文は「意味が同じで書き換え可能だ」と言われています。

① John gave a ring to Mary. ② John gave Mary a ring.

今回はそれをちょっと疑ってみましょう。言葉をチェックするには言葉をいじるところから。a ringを数学の代入のようにitにしてみます。書き換え可能のはず、ですよ。

③ John gave it to Mary. ④ John gave Mary it.

ところが、こうしてみると④の英文の方は、今まで見たことなく、大きな違和感を感じませんか？ なぜそのようなことが起こるのでしょう、理由を解説してきます。（寺尾 康）

2026年度オープンキャンパスの日程は
こちらから確認できます→



ゼミ紹介「アメリカ文学・文化を学ぶ」今井ゼミ

今井ゼミは20世紀以降のアメリカ文学を専門とし、短編小説を中心に読み進めている。前期にはJ. D. Salingerの短編“A Perfect Day for Bananafish” (1948)を、後期にはKen Liuの短編“The Paper Menagerie” (2011)を取り上げた。前者は、一見すると客観的で平易な語りだが、明確な意味を与えられないまま様々な要素が提示され、読者に解釈が委ねられる。後者は、中国移民の母とアメリカ人の父を持つ息子が、自身のルーツや母親を拒絶する姿を描いている。

授業では、各回の担当者が作品内容を整理したうえで、疑問点や仮説を含む論点を提示し、全員で議論を行う。物語の主題や人物描写、語りの工夫といったテキスト内部の要素に加え、執筆当時の時代背景や社会状況にも目を向け、作品を多角的に読み解いていく。学生には、事前に指定された文献を精読し、自分なりの見解を持って授業に臨む姿勢が求められる。また、発表や議論を通じて自身の解釈を根拠とともに言語化する過程を通じ、他者の視点を取り入れながら考察を深め、卒業論文執筆に不可欠な読解力の基礎を養っていく。あわせて、四年生による卒業論文の中間発表も実施し、研究の進め方や構成案を共有した。これにより、三年生にとっては次年度の卒業論文執筆を具体的にイメージする貴重な機会となった。(英語英米文学専攻コース4年)

2026年度立正大学英文学会「特別講演」一般公開のお知らせ

7月25日(土)に開催される立正大学英文学会の特別講演を一般公開いたします。参加ご希望の方は、こちらのQRコードよりお申し込みください。 →



2026年度 立正大学英文学会「特別講演」(仮)

■7月25日(土)

15:00-16:00 「言い間違いが教えてくれること — 発話研究への誘い —」(寺尾 康)

「学習英文法再考2026」8月17日(月)開催!

今年も立正大学英文学会夏休み特別企画「学習英文法再考」を品川キャンパスにて開催します。主に英語の先生方を対象として、当専攻コースの授業を担当している教員による講義のほか、現職の先生方による英語教育の実践報告、および、その内容に基づくワークショップを企画しております。コメンテーターとして、埼玉大学教授、及川賢先生をお迎えする予定です。ご来場をお待ちしています。

「2026年度 学習英文法再考」プログラム(仮)

■8月17日(月)

10:30-11:10 「文法の知識1: there構文、分詞、関係節など」(井川 壽子)

11:10-11:50 「文法の知識2: テンス、アスペクト、ポライトネスなど」(井川 壽子)

13:00-15:45 「英語教育の実践報告とワークショップ」トークとワークショップ

(報告者2名/コメンテーター: 及川 賢)

16:00-17:20 「英語教員が身につけたい英語史の知識」(児馬 修)

【学習英文法再考に関する問い合わせ先】 ikawa.hisako@rissho-univ.jp (井川 壽子)

【ニュースレター問い合わせ先】 elit@ris.ac.jp (英語英米文学専攻コース教務助手)